2018 年 5 月 14 日

BMW Team Studie の BMW M4 GT4 は、Rd.4 で 82 号車が前シリーズに続き表彰台を獲得

BLANCPAIN GT SERIES Asia Rd.3 & 4　CHANG 2018

ビー・エム・ダブリュー株式会社（代表取締役社長: ペーター・クロンシュナーブル）がサポートする BMW Team Studie が、5 月 12 日 / 13 日に開催された Blancpain GT シリーズ・アジア　タイランドの CHANG ROUND に BMW M4 GT4 で参戦した。2 台体制で挑んだレースはペナルティストップやマシントラブルに見舞われたものの、Rd.4 で 82 号車が 3 位でフィニッシュし、シリーズ連続となる表彰台を獲得した。

公式予選 Q1

81 号車を砂子選手が、82 号車を浦田選手が担当した。81 号車は、この週末の最速ラップタイム 1:44.6 を計測 1 周目に記録するが、その後はコース上のトラフィック等でタイム更新はならず、Q1 を 2 番手ポジションで終えた。一方、82 号車は、序盤からタイヤのウォームアップに苦しむ。タイムは伸び悩み、6 番手ポジションでこの予選を終えた。

公式予選 Q2

81 号車を木下選手、82 号車をマックス選手がドライブした。途中コースアウト車両が発生して赤旗中断となったセッションは、木下選手の 81 号車がトップと 0.4 秒差、2 番手とはわずか 0.06 秒差で 3 番手、マックス選手の 82 号車は 4 番手で終えた。

Rd.3 決勝

Q1 暫定順位が 2 番手と 6 番手だった 81/82 号車だが、トップと 3 番手の 2 台がレギュレーション違反でグリッド降格したため、Rd.3 はポールポジションと 4 番グリッドからのスタートとなった。ポールポジションスタートの砂子選手はスムーズなスタートを果たし、トップを維持して 1 コーナーに入る。4 番グリッドスタートの浦田選手は 1 コーナーでの混乱を上手く抜けて 2 番手に浮上した。1 周目のコントロールラインは 81/82 号車の 2 台が 1-2 体勢で駆け抜けた。

しかし、その後ライバル車の速さが際立つ展開となる。スタート時の最後尾の位置から混乱に乗じてジャンプアップした AMG は、2 周目通過時点でトップポジション争いに浮上する。レース序盤は M4GT と後ろから迫る AMG GT4 との一騎打ちとなった。両者一歩も引かず迎えた 7 周目、前を行くマシンから漏れたオイルに乗り一瞬体勢を崩した 81 号車はポジションを 2 番手に落とす。直後、今度は全車追い越し禁止の FCY(フルコースイエロー)が宣言された。

トップを走る AMG が FCY を受けて急減速すると、すぐ後ろを走行中の砂子選手はライバルの右後部に左フロントをヒットさせる。両者大事には至らなかったものの、81 号車は 3 秒後ろからトップを狙う展開となった。砂子選手はその後も果敢に攻めるもオーバーテイクには至らず、2 番手ポジションキープでルーティンのピットストップを迎えた。浦田選手は堅実に周回を重ね、スタート時の 4 番手を守って第 2 スティントを担当するマックス選手にマシンを渡した。

コースに復帰した 81/82 号車は共に順調なペースで周回を重ねる。迎えた 20 周目、トップを

走行するマシンは、木下選手のプレッシャーに晒され単独スピンのミスを犯す。これにより 81 号車は再びトップポジションに返り咲く。しかしその直後、FCY 中の接触に対して 81 号車にドライブスルーペナルティーの裁定が下され、マシンはピットロードへ。ペナルティーを消化した 81 号車は 2 番手でコースに復帰した。

この時点でマックス選手の 82 号車は 3 番手をキープしていたため、2 車同時の表彰台への期待が高まる。しかし、今度は規定のピット時間が 1 秒足りなかった 82 号車が 1 秒のピットストップ&ゴーペナルティーを受け、コースに復帰するもポジションを 4 番手に落とす。更に 2 番手を走る 81 号車にコース上を走る GT3 車両が右フロントにヒットし、タイヤがバーストするというトラブルが襲う。木下選手は再びピットに向かいタイヤ交換を終えてコースに復帰したが、マシンのダメージはタイヤホイールにとどまらず 81 号車はペースダウンすると Rd.3 を 10 位完走で終えた。82 号車は最後までポジションを守りきり、4 位完走でレースを終えた。

Rd.4 決勝

Rd.3 では度重なる不運に見舞われ、表彰台を逃したチームは、ダメージを負ったマシンの修復や問題点を洗い出した後、最大限に準備を整えて Rd.4 の決勝へ挑んだ。前日の決勝に続いて、予選 2 番手のマシンがペナルティーで最後尾スタートになった為、81 号車の木下選手が GT4 のフロントロー、82 号車のマックス選手は 3 番グリッドからのスタートになった。

81 号車は木下選手がオープニングラップを制する。マックス選手はポジションをキープして、2 台は 1 周目のコントロールラインをトップと 3 番手ポジションで通過した。しかし続く 2 周目、81/82 号車はともに後続車のオーバーテイクを許し、2 番手･4 番手にポジションダウンする。マックス選手はその後、5 番手までポジションを下げたが、自力でのリカバリーに成功する。再び 2 番手･4 番手となったが、今度は木下選手が最後尾から追い上げてきたライバル車にオーバーテイクを許しポジションダウンした。トップポジションを奪われた 2 台は、その後 3 周にわたって 3 番手･4 番手をキープする。この体制で前半のスティントを消化するかに思われたが、迎えた 9 周目にトラブルが 81 号車を襲った。

チームラジオで木下選手は、明らかなパワーダウンをピットに伝える。このままの状況でのレース続行は不可能と判断したエンジニアは、81 号車にピットインをコールした。ピットに戻ったマシンは、即座にメカニックのチェックを受けるが、その場での応急処置は叶わず、81 号車の Rd.4 はここで終わった。

一方、マックス選手の 82 号車は、チームメイトのポジションを守ってルーティンのピットインを迎えるまで 3 番手をキープし、後半スティント担当の浦田選手にマシンを託した。浦田選手は一貫したペースで周回を重ね、全く危なげの無い走りで 3 番手を維持し、33 周目にチェッカーフラッグを受ける。前日惜しくも逃した 82 号車の初表彰台を 3 位フィニッシュで獲得した。

鈴木康昭 チーム代表兼監督

「Rd.3 は 81 号車が 10 位、82 号車が健闘むなしく 4 位という結果となりました。81 号車に関しては、ライバルマシンのグリッド降格でポールポジションスタートになり、良い流れを感じていましたが、ペナルティーだけでなく、GT3 にぶつけられてタイヤがバーストする等、不運も続き最下位になってしまいました。82 号車に関しては、浦田選手、マックス選手が頑張ってくれ

て３位をキープし続けてくれましたが、ピットを出るのが１秒早かったためペナルティーを受けてしまい、結果は 4 位になってしまいました。レースはネガティブな事が続いてしまいましたが、気持ちを切り替えて頑張って行きます。」

「Rd.4 は 81 号車がセンサー系のエンジントラブルでリタイア、82 号車は見事 3 位で初の表彰台に登ることが出来ましたが、2 台で明暗の分かれたレースでした。82 号車に関しては、浦田選手・マックス選手が最後まで素晴らしい走りで表彰台を獲得することができました。チームみんなで喜ぶ事が出来たとても良いレースでした。81 号車に関しては世界で 70 台近く走っているM4 GT4 のどのマシンも体験したことが無い、最も暑いコンディション下でのレースで、どのマシンにも出た事がないはじめてのトラブルでした。このレポートはすぐにドイツに送られ、次の鈴鹿やその他の更に暑いレースで同じ事が起きないように対策が行われます。昨日からネガティブなことが続いた中、最後の最後に 82 号車が表彰台に昇ってくれたのはとても良かったです。いよいよ次は鈴鹿と富士。ここはどうしても負けられませんので頑張ります。引き続き応援よろしくお願いします。」

この件に関する読者および視聴者からのお問い合わせ先は、
BMW カスタマー・インタラクション・センター：フリーダイヤル 0120-269-437 を
ご掲載ください。
受付時間: 平日 9:00-19:00／土日祝 9:00-18:00
BMW インターネット・ウェブサイト：http://www.bmw.co.jp

この件に関する報道関係者のお問い合わせは：
BMW Japan Corp. 広報室：03-6259-8025（企業広報）